



令和8年度 古川黎明中学校・高等学校進路情報

黎明キャリア通信

No. 5

令和8年8月26日発行

本校HPはこちら



宮城県古川黎明中学校・高等学校
進路指導部 文責 山田 直人

総合型選抜入試による受験が始動します

●総合型選抜入試について

近年、大学入試の選択肢として注目を集めている「総合型選抜入試」。学力試験だけでは測れない個性や意欲、将来の目標を重視する入試方式です。以前は「A0入試」と呼ばれていましたが、2021年度から「総合型選抜入試」という名称に変わり、より明確な評価基準が求められるようになりました。

🎯総合型選抜のポイント🎯

人物重視の選考があり、志望理由書、面接、小論文、プレゼンテーションなどを通じて、大学が求める人物像に合っているかを評価します。出願は9月から始まり、高校3年生は受験勉強と総合型選抜入試への出願に向けての書類作成を並行して行っており、非常に忙しい時期です。合格発表は11月以降で、年内に進路が確定するケースが多くあります。国公立大学でも総合型選抜入試を実施している大学があります。また、共通テストが必要な場合もあり、学力とプレゼンテーション能力のバランスも重要です。

🏠どんな人に向いている？🏠

- 自分のやりたいことがはっきりしている人
- 探究活動や課外活動に積極的に取り組んできた人
- 面接やプレゼンテーションで自分の考えを伝えるのが得意な人

🔴準備のポイント🔴

志望理由書は“熱意”と“具体性”がカギです。なぜその大学・学部で学びたいと考えたのか、そのために今どんな努力をしているのか、将来どう活かしたいのかという、『過去・現在・未来』の自分を明確にもつことが非常に重要です。また、活動実績の整理しておくことも大切です。部活動、ボランティア、探究活動など、自分の取り組みを記録しておくことをお勧めします。オープンキャンパスや説明会に参加し、大学の実際の雰囲気を感じることや大学のアドミッションポリシー（大学が「どんな学生に入学してほしいか」を示した方針）をよく理解し、自分との相性を確認しましょう。

💎最後に💎

今、高校3年生は勝負の時期にさしかかっています。総合型選抜入試に挑むみなさんには、ぜひ第一志望合格を勝ち取ってほしいと思います。高校1・2年生、中学生のみなさんで大学進学を考えているみなさんには、高校3年生のこの時期に、総合型選抜入試が始動していることと、そのために長い時間準備をするということへの心の準備をしてもらえるとよいと思います。総合型選抜入試は、「学力だけでは測れない力」を評価する入試です。自分の強みや経験を活かして、未来への一步を踏み出すチャンスです。進路選択の幅を広げるためにも、大学のHP等を閲覧し、詳細を調べてみることをお勧めします。

【本校教員によるR8共テ分析③】

★生物基礎

共通テストの問題はToshin.comからの閲覧が便利です➡



分析・講評			今後（次年度）に向けての対策	本校生徒へのメッセージ
大問1	大問2	大問3		
生物の特徴と遺伝情報（生物の共通性・生物とエネルギー・遺伝情報とDNA） 生物の特徴および生物とエネルギーに関する知識問題と考察問題が出題された。いずれも教科書内容を正しく理解していれば、十分に対応可能な問題であった。	ヒトのからだの仕組み（体内の情報伝達と体内環境の維持・免疫） 体内環境の維持に関する知識問題と考察問題が出題された。教科書内容を理解していれば正答可能であるが、知識が曖昧な場合には、難しく思える。	生物の多様性と生態系（植生の遷移・生態系における生物間の関係） 植生の遷移および垂直分布に関する知識問題と考察問題が出題された。情報量は多いものの、与えられたデータと選択肢を一つ一つ丁寧に吟味すれば、過度に時間を要する問題ではない。	問題文や設問文の分量が多く、リード文が会話形式になることが多いのが特徴である。すべて教科書内容からの出題となる。「生物と遺伝子」・「生物の体内環境」・「生物の多様性と生態系」の3分野で構成されており、それぞれの分野から大問が1つずつ出題される。このため、全ての分野を満遍なく学習する必要がある。	共通テストでは、教科書内容の知識を活用しながら図や表を解析する力、“思考力”が求められている。考察問題をスムーズに解くためには、教科書に登場する基礎知識を確実に身につけておくことが不可欠。教科書の記述を「丸暗記」する学習は避ける。教科書に出てくる生物用語を正確に理解すること。その際、「用語を覚えているかどうか」ではなく、「用語を説明できるかどうか」を習熟度の指標とする。

★地学基礎

分析・講評			
大問 1		大問 2・3	
大問	問	大問	問
1	1	2	7
	2		8
	3		9
	4	3	10
	5		11
	6		12
大問 4		大問 4	
4	13	4	13
	14		14
	15		15
今後（次年度）に向けての対策		本校生徒へのメッセージ	
1) 正答率が7割に満たない問題から2つの傾向に区分できる。 ① 基礎的な知識がない ② リード文や図から正しい情報を導けなかった。 ①については、昨年の反省より、夏休み前の課外からやっていたが、反復練習（覚える作業）を個人でどこまでやったか。Ⅳ期課外でも、応用問題以外に基礎的用語・現象の問題も取り上げたが、課外不参加の生徒がどこまで復習していたかは不明。課外参加者には、問題ごとに復習のポイントを指示したが、講義後の反復練習をどこまでやったかは不明。 ②については、Ⅳ期課外からのテーマの一つであった。相当数をこなしたが、不正解者が出ている以上、今後も要注意ポイントになる。 2) 一昨年は複数の知識を組み合わせて解答する問題が多く、昨年はほとんど基本事項で選択肢も選びやすかった。今回は、教科書欄外の用語であったり、不正解に誘導するような図が出てきたり、細かい知識を問う問題も見られたが、リード文や解答の選択肢からくみ取れる内容であった。しかし、リード文や前後の文章、他の選択肢から情報を引き出し、正解を導くトレーニングをしていなければ、正答率60%（30点）は厳しい問題であった。 3) 楽に点数を取ろうとする傾向が続いている。必要最低限の勉強時間を確保する、また勉強の仕方に工夫が必要である、ということを説きながら、授業や課外に取り組むたい。正解率が80%以上の問題は、授業で強調しているところをきちんと押さえていたということ。正解率が70%以下の問題を参考にして次年度については次のようにしたい。 ① 基本的な用語や現象の修得にはトレーニングが必要。 ② 文脈の捉え方でケアレスミスをしたと思われるものについて、特に複数の表現がある現象に対しては、反復が必要。 ③ 細かな知識問題で取りこぼしが見られたので、その反復練習が必要。 4) 本校生なら解けてほしい問題と得点 1、3、4、6、7、8、10、11、15 得点30点		◆大学入学共通テスト地学基礎の特徴 今回は新課程になって初の共通テストとなりました。知識問題としては、これまでの共通テストでは、教科書からまんべんなく（欄外や参考も含め）出題されていましたが、今回の共通テストでも変わりませんでした。 マーク式の試験と言えば独特な解法が必要だと思える人もいますが、本文を読まずに選択肢だけから答えが出たり、きちんと計算をせずに計算問題が解けたりすることはありません。 今回出題された問題は基本事項を知っていれば解ける問題がほとんどでした。ただ、単純な知識問題ではなく、様々な分野の基本事項を横断的に分析し解答を導く力が必要になります。単なる知識問題の割合はここ数年で少なくなっています。 ◆これからの学習について 左記の分析も見ても、過去10年分の問題を見ても、共通して言えることは、最低限、教科書に出てくる用語と現象を理解し覚えなければ解けないと言うことです。一問一答式の問題ではなく、基本事項が複数の分野で横断的に組み合わせられて出題されます。 用語・現象の理解の次に応用です。2年生の授業では複数の教科書の内容を組み合わせたプリントを使っていました。それをこなすだけで用語・現象の「理解」は十分です。横断的な考察のトレーニングは3年生の課外授業で行うのでそれは積極的に受講してください。今やるべきは、「理解」した知識を「覚えること」です。よく「今覚えても忘れてしまうから後で」という人がいますが、全ての科目を「後で」できますか？ 何度も反復することで、覚えることができます。この手間を惜しまずに時間をかけた者が得点率8割を達成しています。 また、先入観や感覚だけで解こうとすると、誤った選択肢に誘導されます。図やグラフをどのように解析し、正しい答えを導くかはトレーニングが必要です。 ◆課外授業や模試の活用 用語・現象の理解度や取りこぼし・抜けの確認、応用問題を用いて横断的に考えることをトレーニングする、など課外授業や模試を受けっぱなしにせず、問題のやり直しやその単元の復習（取りこぼし・抜け・覚えることを覚える）に活用しましょう。 ◆最後に 本校でデータ化している「小問別得点データ」を個人ごとに「授業」「や「課外」での取り組みと照らし合わせてみると、「得点率70%位取れればいいからそれくらいの勉強量でいいや・・・」という人は70%取れず、50～60%の得点率でした。もちろん20%台の人もありました。妥協した目標の数字がMAXの得点となるので、実際には目標とした得点率70%の7割しか取れないので、実際の得点率は5割くらいです。常に満点を狙うような勉強の仕方、時間の取り方を計画的に行って下さい。	

各大学の最新の入試情報は『河合塾 Kei-Net』での確認が便利です。右の二次元コードよりご覧頂けます。大学ごとに入試の種類も多岐にわたります。小まめな確認をお願いします。

